

令和7年度倉敷市立美術館協議会議事録

開催日時 令和7年7月10日(木) 14時～15時40分

開催場所 倉敷市立美術館3階第2会議室

日 程 開会

1 教育次長あいさつ

2 委員の紹介

議事

1 令和6年度事業実績・決算見込みについて

2 令和7年度事業計画・予算について

3 その他

閉会

出席者 委員：坂本委員、竹内委員、新垣委員、福富委員、前田委員
真重委員、森川委員（7名）（50音順）

事務局：森教育次長、永野生涯学習部長、早瀬美術館長、杉野主幹
佐々木主任、山吹副主任、前田学芸員、佐藤学芸員（8名）

欠席者 ウォルトン委員

傍聴人 0名

議事録(要旨)

1 令和6年度事業実績・決算見込みについて

(事務局) 資料に従い説明を行った。

(委員) 倉敷っ子美術展は、15日間に1万人以上の方が観覧し、子どもたちも学校の行事や家族と一緒に美術館に足を運んでいる。小さいころから生活の中に美術を根付かせるチャンスである。昨年度の協議会で、倉敷っ子美術展のアーカイブを充実させて資料として見てもらえるものを作ってはどうかと提案した。その後新たに進めていることはあるか。

(事務局) 現在、具体的にご提示できるものはないが、今年は展覧会が40回目という節目の年でもあり、何らかの形でアーカイブ化できるよう考えている。

(委員) エントランスホールで演奏すると音響が素晴らしい。展覧会のオープニングで学生の演奏をしたら子どもたちにも感動してもらえた。音楽をくつろいだ雰囲気でも聞くことのできるチャンスなので、子どもたちにも聞いてもらえる

よう演奏会の回数を増やすことはできないか。

(委員) 美術展を見に来られた方も、サプライズで演奏を聞けるのはよかったとの声も聴く。これまでわざわざ美術館に足を運ばなかった方でも、演奏する学生のご家族などコンサートがあるからということで来館される。展覧会鑑賞のきっかけとなるよう広がっていけばいいと思う。一度にいろいろ体験できるお得感のある企画が求められている。企画する側は大変だが、お客様はありきたりのものでは満足できなくなっている。何かのきっかけで来館して美術館にいい印象を持っていただくことも大事である。

(事務局) くらしき作陽大学にはこれまでにいろいろご協力をいただいている。学生さんの演奏会を倉敷っ子美術展の開会式で実施できるよう検討したい。

(委員) エントランスホールで行われた真備復興のコンサートは、演奏者の演奏ももちろんだが音響が素晴らしかった。G7での竹内先生の演奏も素晴らしかったので、音楽と美術を融合した企画をぜひやっていただきたい。

(委員) 美観地区への観光客は有名な大原美術館には必ず行かれるだろうが、市立美にも足を運んでいただけるようお客様の傾向を把握してイベント企画に生かすことはできないか。

(事務局) コレクション展、特別展ではアンケートを取っているが、来館者に手渡しするのではなく、用紙を自由にとって記入してもらう方式なので回収できる数が限られている。他の美術館では日にちを限定して、1日間だけ観覧者全員に用紙を渡して集中して取る方法を取っている館もあるようだ。有益な情報を収集するためにアンケートの取り方を検討したい。

(委員) 丹下健三の建築である美術館の建物も素晴らしい芸術作品である。観光客にも理解が深まればよい。

(事務局) 建物だけを見学に来られる海外からのお客様もいらっしゃるので、建物についても情報発信したい。

(委員) まるごと馬場のぼる展は大変多くの集客があったが、展覧会事業費の1200万円が馬場のぼる展の費用なのか。

(事務局) 展覧会事業費には、高橋秀展、コレクション展の広報印刷物や日本通運に委託している展示作業費用が含まれている。馬場のぼる展は山陽新聞社と実行

委員会を組織して行ったもので、負担金は美術館が500万円、山陽新聞社が1000万円を出している。

(委員) 大原美術館の所蔵作品を紹介する展覧会を静岡市美術館で企画したとき、費用総額が4000万円となった。観覧者数は5万人で美術館としては、記録的人数となったが、多額の費用がかかり、静岡新聞社や静岡放送、静岡市美術館などで費用を出し合った。

(事務局) 馬場のぼる展は企画会社の企画で全国を巡回するものなので経費を抑えることができた。静岡での展覧会は単独で行われ、また大原美術館所蔵の名画は作品の保険料もかなりかかることで費用がかさんだのだと考えられる。

(副会長) 遙邨コーナーでは人数のカウントをしていないとのことだがもったいないことだと思う。アンケートや感想ノートを置くことで、お客様の人数の把握や反響を探ってはどうか。

(事務局) 出品リストの減った数などで人数を把握することもできると思う。また感想ノートはいいアイデアで、設置を考えたい。

(2) 令和7年度事業計画・予算について

(事務局) 資料に従い説明を行った。

(会長) 入場者数の見込みなどは作成しているのか。

(事務局) 前年度の予算要求の時に歳入の見込みとして有料の人数を算出している。

(副会長) 職員の人数が増えているのに給与費が減額となっているのはなぜか。

(事務局) 表では正規職員が5名とあるが、昨年度までの館長が会計年度任用職員だったので、当初予算は4人で算出されているためである。

(会長) 展示作業は専門業者に依頼しているのか。

(事務局) 2階で行うコレクション展の展示替えや特別展の作品運搬・展示作業は日本通運に委託している。3階の遙邨コーナーは小品や写生帖などの素描類が中心となるので職員が展示している。

(会長) 日本通運が県内の美術事業から撤退という話もきいた。県立美術館でもお困りではないかと思う。大原美術館では展示作業などを依頼できなくなった。県外から業者を呼ぶとコストがけた違いに上がる。

(委員) ボランティアの会員に、今年度、学生や子育て中の若い方が入ってきた。長く活動を続けてほしいと思っている。

(事務局) ボランティアの会員が昨年度と同じ会員数になっているのは入会する人と退会する人の人数が同じだったためであり、若い方が増えたことで全体の年齢層が若返ったともいえ、美術館の活動が若い方にも関心を持ってもらえているのだと感じている。

(3) その他

(事務局) 7月8日から2階・第2及び第3展示室の壁面クロスの貼り替え修繕を行っている。7月23日には工事を終了し、枯らし期間をおいて8月26日から池田遙邨名作展を開催する。

(委員) 遙邨コーナーの観覧者数やどこから来られたかを把握するため、アンケートに代わるものとして地図にシールを貼ってもらうというのはどうか。他の施設でしているのを見たことがある。アンケート用紙に文字を書くこともいらず、楽しんで参加してもらえるので、取り入れてみてはどうか。

(会長) 大原美術館でも実施している。毎月1200件ほどあり月毎に集計している。どこから来られたかについても真面目に貼られていて、おおよそアジアが50パーセント、ヨーロッパ30パーセント、アフリカから来たという人もいた。また、倉敷市や岡山県とも情報を共有化して、イベントの立案に生かしていきたい。

(委員) 商工会議所では、今年は倉敷ケーブルテレビが費用を負担して人流解析サービスを実施している。特定のエリアに何人いたかや、いた人の属性などの情報をスマートフォンから取得できる。過去にさかのぼってもデータが収集できる。ただし、建物の何階にいるかまではわからず、また日本のスマホを使用していないので海外から来られた方の情報は取れない。ハートランド倉敷や屏風祭り、春宵あかりなどイベントでの利用を考えている。広く利用していただきたい。

(会長) とても画期的なシステムで、今後役立てていけると思う。今年は万博と瀬戸内国際芸術祭があり、万博では夏休み期間中の8月22日から3日間は岡山

県博物館協議会として一緒にPRできたらいい。

(委員) 美術館周辺の街路樹が大きくなり建物が見えなくなったことで、入館の導線がわかりづらくなっているのではないか。また、美術だけではなく音楽や別の要素を含んだイベントを開催して、広く集っていただくことが必要。

(委員) 美術館の建物は丹下健三の建築として海外からも注目されている。美術館近くの空飛ぶクルマの展示場からも真正面に美術館が見えてお客様に自慢ができる。建物自体の素晴らしさもアピールしてほしい。

(事務局) 教養講座で一昨年に浦辺設計の西村清是氏を講師に迎えて講演会を実施し、150の方が聴講された。また同年に、倉敷市の職員を対象としたバックヤードツアーは大変好評で、2回実施してあわせて80名が参加した。

4 閉会のあいさつ

(副会長) 活発な意見交換があり、アイデアもいっぱい出された。スタッフの皆様にはできることがあればひとつでも取り入れて魅力的な活動をできるようがんばっていただきたい。自分も管理者の立場になり、働き方改革など社会の仕組みの変化に対応することに苦労している。問題・課題も山積みだが、試行錯誤して最適解をみつけていくしかない。委員の方々や先達のご意見もうかがいながらより良い形で事業を進めていかれるようお願いする。

以上を令和7年7月10日開催の令和7年度倉敷市立美術館協議会の議事録(要旨)とすることに同意します。

令和7年 7月 18日

倉敷市立美術館協議会

会長 森川 政典

